

島唄通し奄美の文化考察

2021年7月に世界自然遺産に登録された奄美大島(鹿児島県)の文化について考えるイベント「奄美のシマ唄・島唄 つなぐ」が5日、浜松市中区の静岡文化芸術大で開かれる。企画したのは民族音楽学が専門の梅田英春教授(59)＝同区＝に学ぶ学生たち。島唄に代表される奄美大島の伝統文化の継承や環境保全について考えるきっかけにしたいと準備を進めている。

静岡文化芸術大生が企画、準備



「懐かしい未来へ」を練習する学生
＝浜松市中区の静岡文化芸術大

5日に曲披露へ練習に励む

2月22日夜、同大のゴスペルサークルのメンバーがイベントで披露する曲「懐かしい未来へ」の練習に励んだ。奄美大島特有の音階と、西洋のポツプス、ジャズなどの要素の融合に挑戦し、歌声を響かせた。



イベントのチラシを紹介する梅田教授(左)と高橋さん

同島は亜熱帯の森に固有の動植物が生息する「奄美・沖縄4島」の一部として世界自然遺産に登録された。

作曲家の村松さん出演、鼎談も予定

5日のイベント「奄美のシマ唄・島唄 つなぐ」は午後3時開演。奄美大島の世界自然遺産登録された。島外から大勢の来訪が見込まれる一方、自然環境の変化や伝統文化の衰退、人口減などが懸念される側面もある。「懐かしい未来へ」は、そのような状況を見据え、奄美ゆかりのミュージシャンたちが18年に制作した。歌詞は島を離れる若者へのメッセージを念頭に、地元を愛する島民の葛藤などを盛り込み、今後の奄美大島を考へてもらうきっかけにしたいとの狙いがある。「この曲で歌われる課(浜松総局・伊藤龍太)

録を前に「懐かしい未来へ」を作曲したピアノスト村松健さんや、静岡文化芸術大のゴスペルサークル「ごす」が出演し、島唄などを披露する。曲の合間には村松さんらの鼎談(ていだん)も予定している。
入場無料。事前に同大ホームページから申し込みが必要。問い合わせは同大へ電053(4297)6105へ。